

(社)日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第13回 確率論的安全評価分科会 (PISC) 議事録

1. 日時 平成13年4月24日 (火) 13:30~17:00
2. 場所 原子力学会 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 平野 (主査), 矢作 (幹事), 加藤, 福田, 中井, 成宮, 藤本, 松本, 森田 (10名)
(代理出席委員) 牟田 (山下代理) (1名)
(欠席委員) 古田 (副主査), 佐藤, 村松 (3名)
(常時参加者) 倉本, 古橋, 増田 (3名)
(傍聴者) 野田
(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

- PISC13-1 第12回 確率論的安全評価分科会議事録 (案)
PISC13-2 標準委員会の活動状況
PISC13-3 標準原案 (改定版)
-1 表紙~目次~2. 定義
-2 3. 概要
-3 4. プラントの構成・特性の調査
-4 6. 起因事象の選定
-5 7. 成功基準の設定
-6 9. 緩和系の信頼性評価
-7 10. 従属故障
-8 11. 人間信頼性解析
-9 12. データベースの作成
-10 第13章 事故シーケンスの定量化 / 第14章 報告書のとりまとめ
PISC13-4 用語 (改定版)
-1 福田委員分 -2 山下委員分 -3 中井委員分
PISC13-5 略語
-1 福田委員分 -4 森田委員分 -7 松本委員分
-2 矢作 / 成宮委員分 -5 藤本委員分
-3 加藤委員分 -6 牟田委員分
PISC13-6 停止時PSA標準実施手順書レビュー体制 (案)

5. 議事

議事に先立ち、事務局より、委員13名中代理委員を含め10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について、承認された (PISC13-1)。

2) 標準委員会全体活動状況について

事務局より、資料PISC13-2により第5回発電炉専門部会での「停止時確率論的安全評価実施手順 (案)」中間報告におけるコメント等の説明があった。また、その後の委員コメントとが1件ある旨報告があり、3)で検討を行った。

3) 標準原案検討

事務局及び各委員より、資料PISC13-3-1~3-10により、分担作成した標準原案 (素案) の説明があり、以下のような審議がおこなわれた。

- ・本文と解説との番号は対応するようにする。付番の詳細については、幹事、事務局で相談の上決定する。
 - ・様式については、現在かなりの不整合がある (全角 / 半角の不統一等) が、委員会への中間報告時点では、余り厳密に考えず、委員会以降に事務局で整理をした上で様式の修正を行うこととする。
 - ・「序」の記載は削除する。その後の文章が長い場合には、担当者の判断で適当な「細箇条 (サブタイトル)」を設ける等を行う。文章がない場合には数行の文章を入れる。
 - ・PISC13-3-2, 4頁下から1行目, 「検討することとする」は不適切, 「検討することが望まれる」とする。
 - ・PISC13-3-4, 1頁下から7行目, 「一般的な研究」は, 対応する適切な参考文献があればそれを記載, 無ければ削除。
 - ・RHR切替え時については, 出力時PSAの領域に含まれる。
 - ・PISC13-3-8, 表11-1, 表11-2他, 簡略化, 分かりやすくする (番号, 英語の記載等)。
- 11.10タスクの失敗確率の評価の「なお, ...考慮すること。」は, 最終行へ移行する。

- ・P1SC13-3-9, 国内の一般データとして利用できるデータベースにおいて、ゼロ件故障は0.5件として取扱われており、特に、排除すべき理由は見当たらない。
 - ・その他用語の修正（「通商産業省委託研究」は「.....委託事業」に等）
- 3) 用語について
 - 用語について, P1SC13-4-2を基に審議し, 「プラント状態」, 「イベントツリー」及び「フォールトツリー」を追加することとした。また, 「成功基準」の定義を, 例えば「...プラントを安定な状態へ移行させる機能...」とする。
- 4) 略語について
 - 略語について, P1SC13-5-1~5-7を基に審議し, PDS, LERを追加することとした。また, 略語は附属書として一括してまとめることとした。
- 5) 手順書(案)のレビューについて
 - 矢作幹事より, 資料P1SC13-6により今回作成した標準案についてのレビュー方法が提案され, 了承された。尚, この際, 体裁も含めたレビューを行うこととした。
- 6. 次回の予定
 - 第14回分科会は, 6月12日午後開催することとした。

以上